

第2回指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の 将来のあり方に関する検討会議

会 次 第

日時：令和7年2月10日（月）14:00～

場所：鹿児島県社会福祉センター

7階第2会議室

1 開 会

2 挨 拶

- (1) 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議
会長（鹿児島県交通政策課長）

3 報 告

第1回ワークショップの振り返りについて

4 議 事

第1号：鉄道を活かした地域づくりについて

第2号：今後の進め方及び取組について

5 意見交換

6 そ の 他

7 閉 会

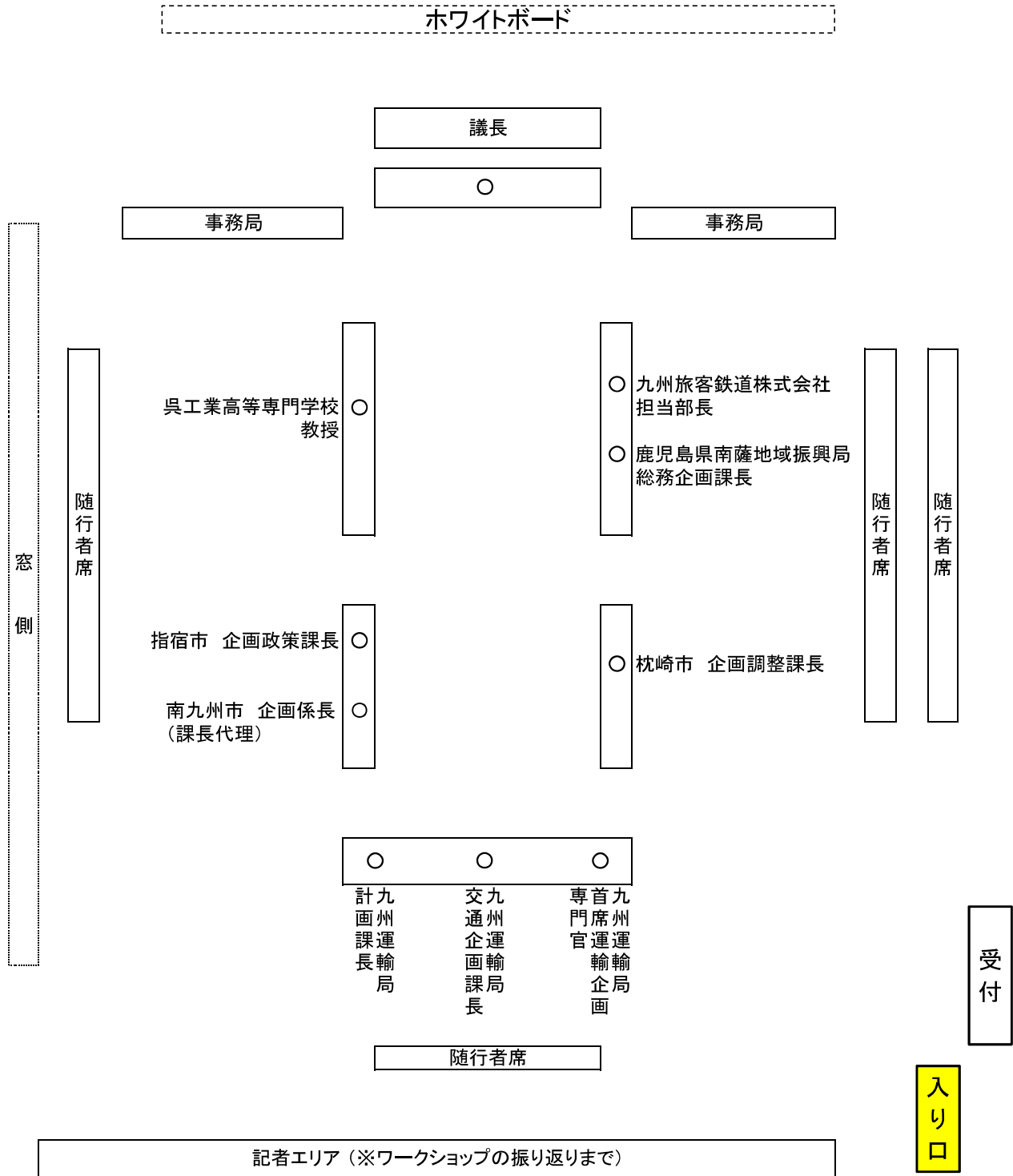
第2回 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議 出席者名簿

	団体名	職名	氏名	備考
1	鹿児島県総合政策部交通政策課	交通政策課長	鈴木 圭 祐	
2	鹿児島県南薩地域振興局 総務企画部総務企画課	総務企画課長	恒松 真一郎	
3	指宿市総務部企画政策課	企画政策課長	東 忠 孝	
4	南九州市企画課	企画係長	上野 晋作	課長代理
5	枕崎市企画調整課	企画調整課長	日渡 輝明	
6	九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部地域戦略部	担当部長	堀江 秀理	
7	呉工業高等専門学校 環境都市工学分野	教 授	神田 佑亮	

オブザーバー

1	国土交通省九州運輸局 交通政策部交通企画課	交通企画課長	鈴木 貴大	
2	国土交通省九州運輸局 鉄道部計画課	計画課長	井料 達己	
3	国土交通省九州運輸局 鹿児島運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	谷 口 誠 一	

第2回指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議 配席図



商工関係者及び沿線高校生徒のワークショップの振り返り

開催状況

- 地域の将来を考えるにあたり、「指宿枕崎線」や「沿線地域」の魅力や価値をどのように認識し、地域づくりに活かしていくかという視点のもと、地域の可能性や方向性を見出していくことを目的として、商工関係者や沿線地域の高校生を対象としたワークショップを実施。
 - ・令和6年10月 8日 商工等関係者とのワークショップ
 - ・令和6年10月28日 沿線地域の高校生とのワークショップ

【商工等関係者とのワークショップ意見等概要】

- ・最南端の駅、古い駅舎が残り、多くの人が優しい、開聞岳、歴史、食と自然が豊かであり五感に訴えかけるなどの沿線地域の魅力が多く、これらの魅力を繋げた展開の仕掛けなどを考えて行くことが必要などの意見がなされる。
- ・指宿枕崎線には、南国の風景を眺めながら、ゆったりとした時間が満喫でき、駅と温泉も近く、鉄道のレトロ感などポテンシャルを十分に有し、鉄道で過ごし方を考えていく、地域の魅力を絡めた鉄道の運行なども考えていくことが必要などの意見がなされる。

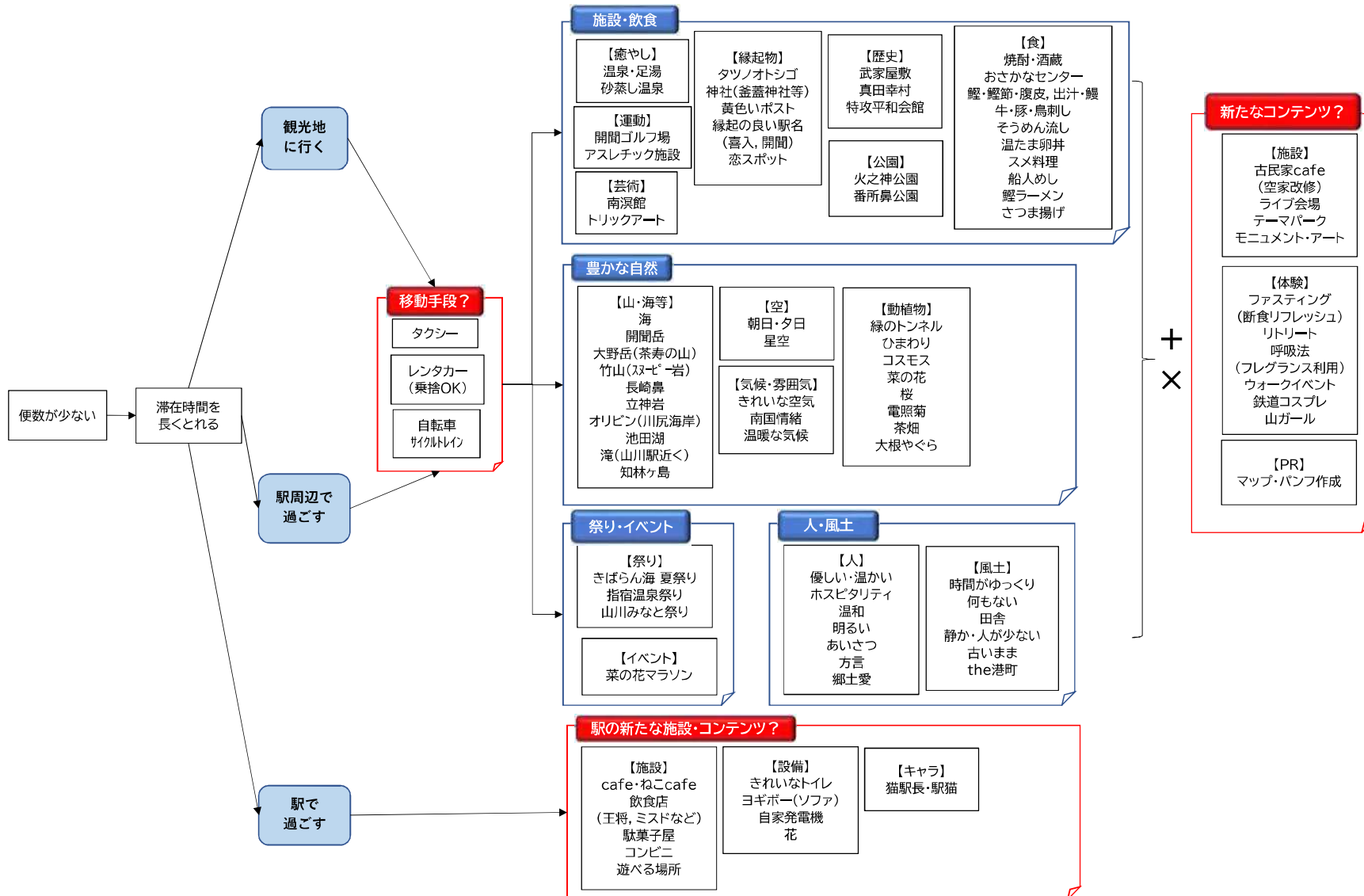
【沿線地域の高校生とのワークショップ意見等概要】

- ・食や自然が豊かで、地域の特産品も多く、地域の住民の優しさなど沿線地域の魅力が多い、一方で、若者が少なく、遊ぶ場所が少ないなど若い世代目線での意見がなされる。
- ・指宿枕崎線には、車窓からの景色が美しく、駅でのコミュニケーションもでき、気軽に乗車出来るなどの魅力、一方で、列車の運行回数が少ない、次の列車到着までの時間が長いなどの課題があり、駅で遊べ、カフェの併設などゆっくり出来る空間の創出などの意見がなされる。

- それぞれのワークショップでは、「地域の魅力」、「指宿枕崎線の魅力」に関し、様々な意見が出され、地域の方々が沿線地域を大事に想い、地域としての熱意が伝わってくるなど、関係者で地域を盛り上げていく機運の醸成が図られてきた。
- ワークショップについては、1回のみで開催ではなく、意見や検討会議での状況をフィードバックしながら、出来ることから速やかに始めるとともに、引き続き、検討会議とワークショップでの連携など関係者で一体となり議論を積み重ねていくことを確認した。

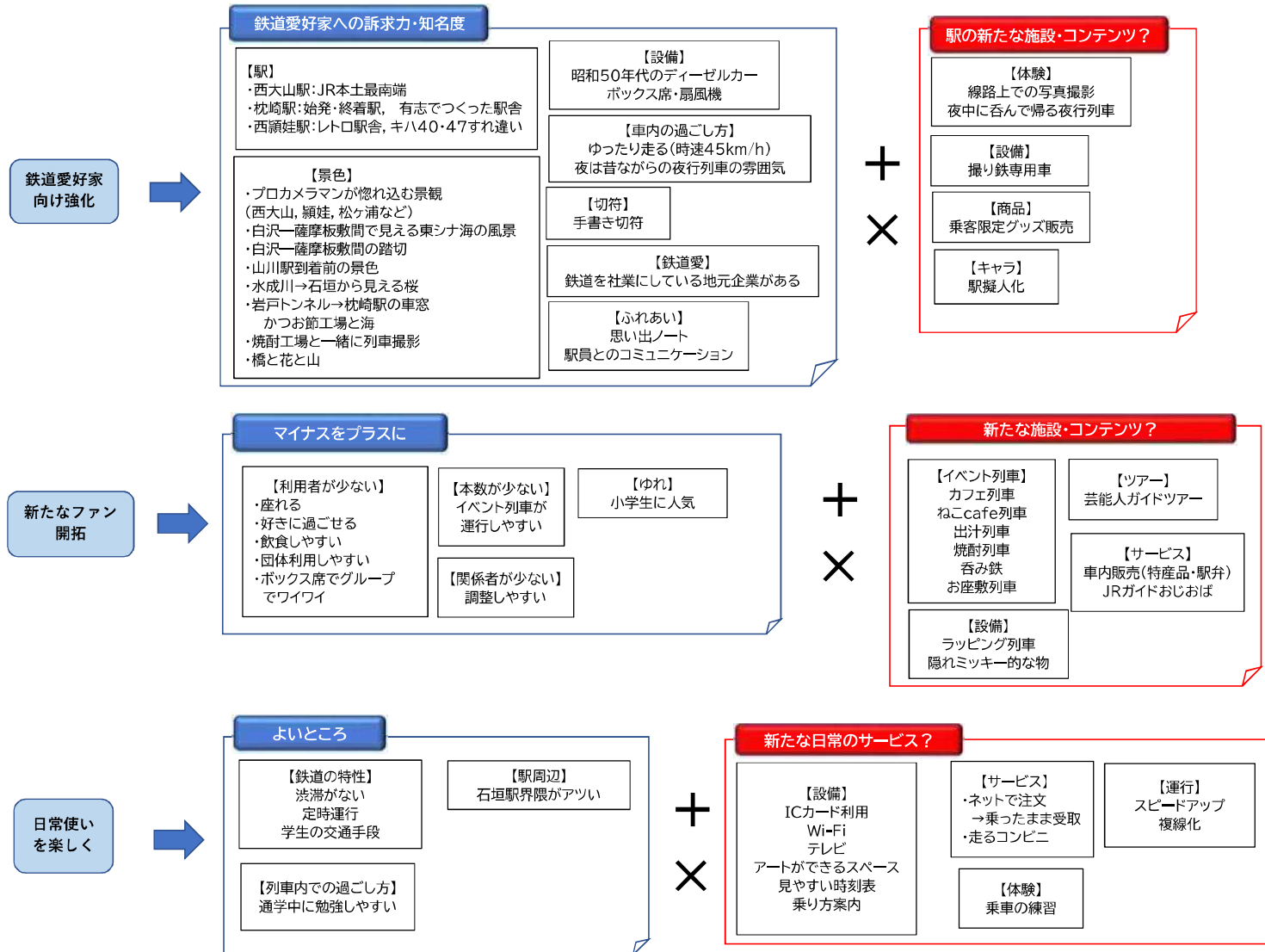
ワークショップで出された主な意見（商工等・高校生）

①現地を楽しむ

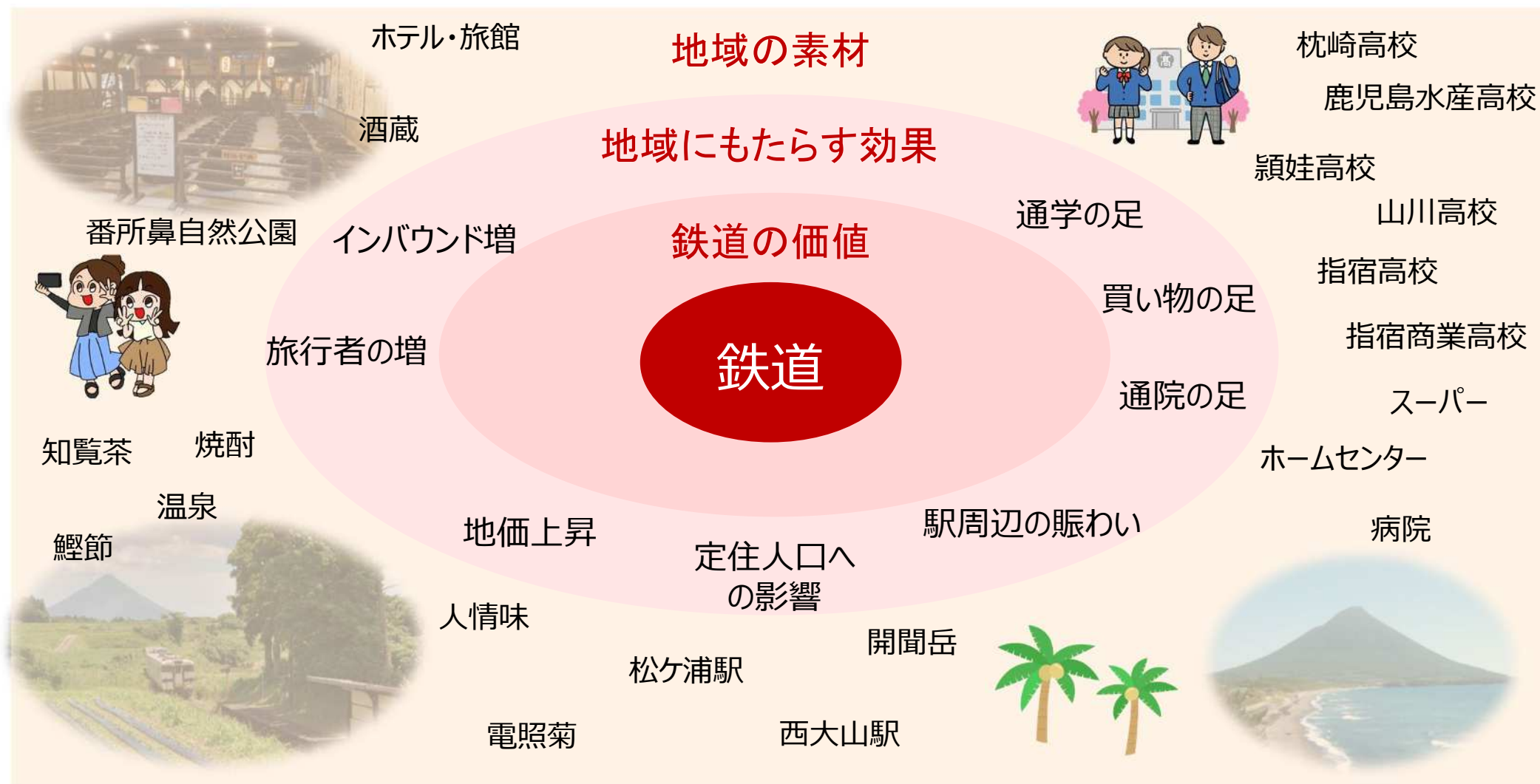


ワークショップで出された主な意見（商工等・高校生）

②「乗る」を楽しむ

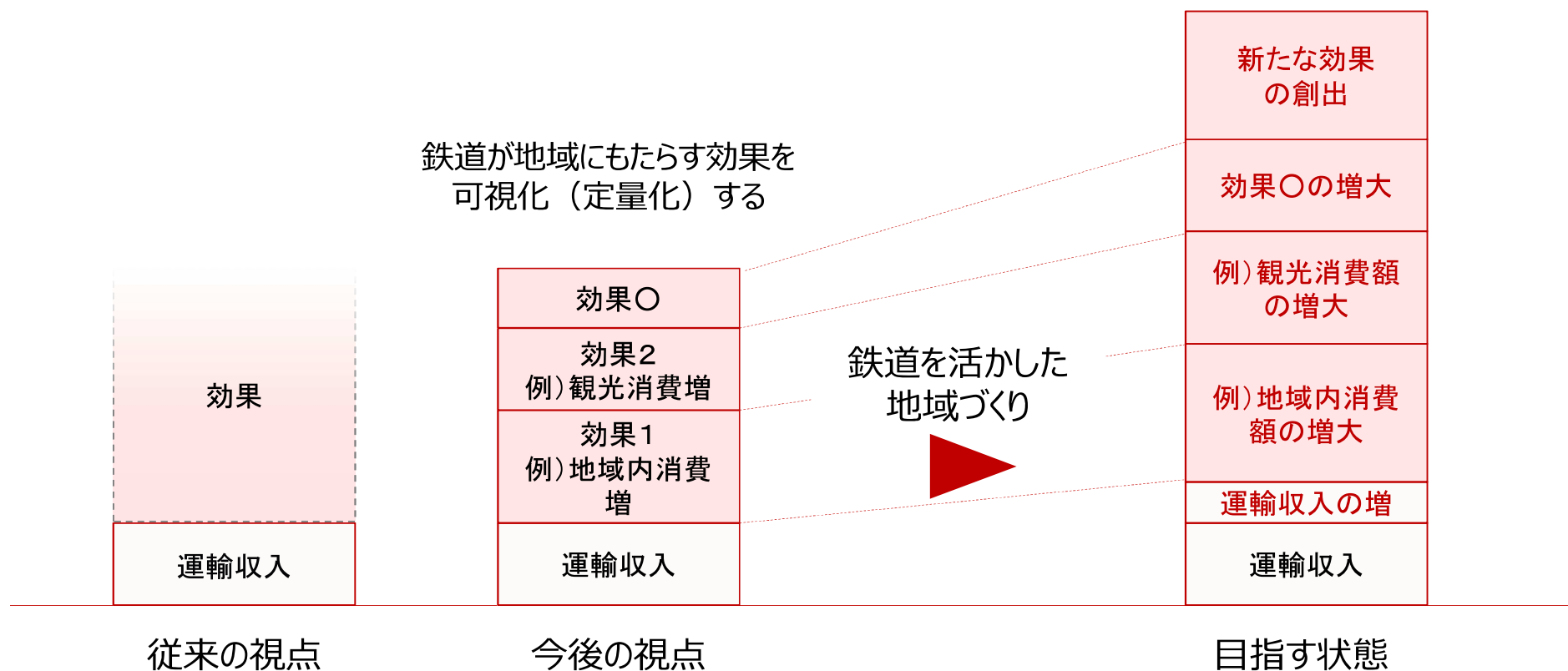


鉄道を活かした地域づくりとは



地域にもたらす効果（経済的価値）の最大化について

効果の最大化に向けて
施策を計画・実施する



地域にもたらす効果（経済的価値）の算出イメージ

価値 の例	移動手段としての価値	乗ることそのものへの価値	存在（象徴）	...
効果 の例	・ 通学の足 ・ 通勤の足 ・ 通院の足 ・	・ 旅行者の増 ・ インバウンドの増 ・	・ 定住人口への影響 ・ 地価上昇 ・ 駅周辺の賑わい ・	
指標 の例	・ 鉄道利用者数 ・	・ 入込客数 ・ 観光消費単価 ・	・ 人口 ・ 地価 ・ 駅周辺店舗の売上 ・	

今後の課題: 各指標と算出方法の検討、それらの数値を最大化する施策の検討

今後の進め方及び取組について

前提条件

- 第1回検討会議において、沿線人口の将来を考えると、生活交通需要のみでは限界であり、「鉄道」というアセットを活用して地域が稼ぎ出すことができ、その結果、地域の足も確保という発想もあって良いという観点から、鉄道を活かした地域づくり等を検討し、鉄道の可能性を追求するとして整理したところ。
- 本日開催している第2回検討会議での議論をもとに、各委員の御意見等を踏まえながら、今後の進め方や取組については決定していくが、内容としては以下のようなものが考えられるのではないかと。

今後の進め方及び取組

- ① まずは、地域の可能性や方向性を、地域の方々も交えてそれぞれの意見を集約していくことが必要であり、本日の検討会議での議論等を改めて、商工等関係者や沿線地域の高校生と共有し、それぞれの関係者が一体となり議論を積み上げるためのワークショップの開催が必要。
- ② 今後の検討会議では、「鉄道を活かした地域づくり」にフォーカスした議論を行っていくこととなるが、議論にあたっては、以下の内容といった要素の整理も行いながら進めていくことが必要ではないかと。
 - ・ 鉄道を活かして地域が稼ぎ出すという視点では、現在の経済的価値が見える化するとともに、将来に向けてさらに経済的価値を高める取組の検討も必要。

- 経済的価値の見える化にあたっては、調査を要するが、経済的価値の評価の考え方や調査内容の議論が必要。
 - 経済価値を高めるには、現在の取組を磨き上げるほか、今後地域として稼いでいくために必要な実証事業の実施も必要。
 - 取り組みを進めるには、担い手、伴走者の創出の検討等も必要。
- ③ 次年度の進め方や取組については、上記のほか、どのような進め方や取り組みが考え得るか、本日の検討会議で知恵を出し合い、そのとりまとめ結果を改めて各委員の皆様へ送付することとする。

指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議

今後の検討の視点

神田 佑亮

呉工業高等専門学校

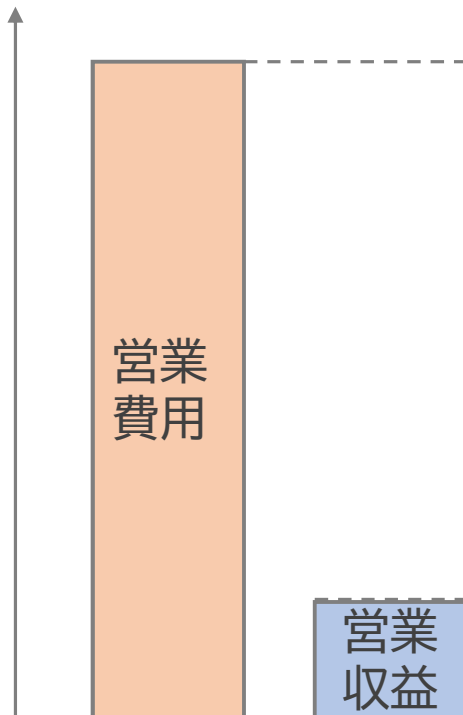
yusuke-k@kanda-labo.net

wsから見たこと

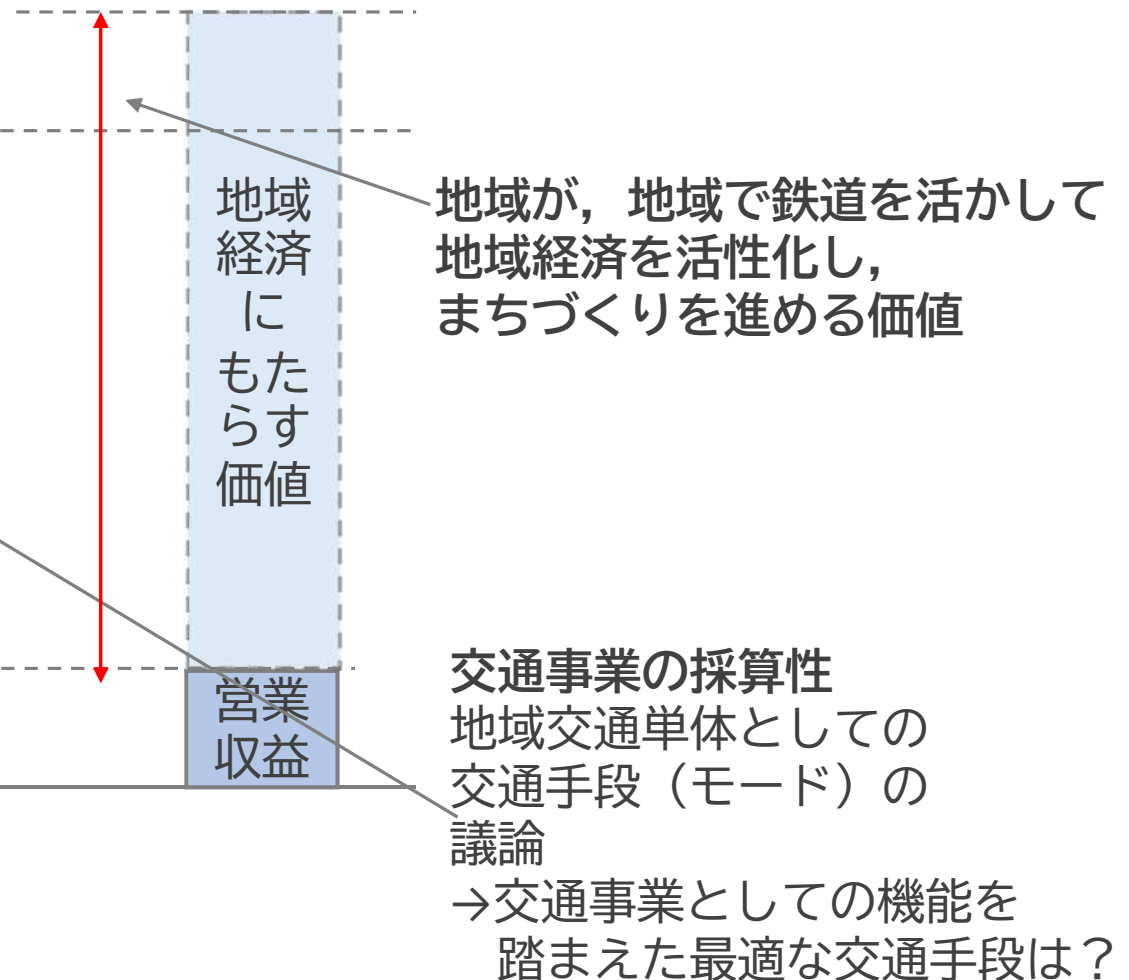
- 指宿枕崎線や沿線の地域の魅力・価値については多くの方が魅力を挙げる
 - 特に、この地域オンリーの要素を多くの方々が挙げた
- 地方ローカル線ならではのいいところを挙げる声も多々
 - 車窓からの景色，駅でのコミュニケーション，人が少ないため気軽に乗れる...etc
- サービス水準面での課題を指摘する意見も
 - 列車本数の少なさ，待ち時間の長さ，，運行中の激しい揺れなどのデメリット
- 駅施設，車両の活用の意見が挙がった
 - 電車の外装のデザインや，写真スポットの増加，自然に近い駅としての売り込み，
 - 車両の中での地域食材の飲食・配布
 - 駅で遊べ，カフェの併設などゆっくりできる空間を創出など

地方鉄道を巡る論点と今後の議論の視点

▼現在よくある採算性の議論



▼鉄道の価値の議論



地域における鉄道の役割

- 地域経済効果・まちづくりを踏まえた視点での整理が必要
(地域が地域づくりで必要と考えるということが大前提の上で)
 - 交通手段としての活用
 - 移動量を増やすために（移動の誘発）
 - 発生量を増やすために（駅周辺のまちづくり，集約化）
 - 集中量を増やす（駅周辺のまちづくり，目的地づくり・集約化）
 - 交通手段転換：無理して利用している人の転換
 - 鉄道をトリガーに，地域に人やお金を呼び込むための手段
 - 同時に
 - マイレールではなく，マイまち意識の引き出しと醸成（能動性）
 - 主体性・能動性の引き出し
 - 鉄道問題として悲観的に考えるのではなく，今後のまちのあり方をポジティブに考える機会
- ➡これまでに，地域の方々と，ありたいまちの姿を，参加者が1人称で語ることがあったか？

地域における鉄道の役割

- 地域交通の価値＋地域経済を生み出す価値
 - 後者は，地域が必要と考えるということが大前提の上で
 - 地域の経済・活性化にとって鉄道が必要であり，その上で，生活交通を支える役割も確保できるという視点
- 前者だけならば，「既往の議論」に則すことが合理的？